

書評

これからの「正義」の話をしよう
(マイケル・サンデル)

人文社会科学研究科

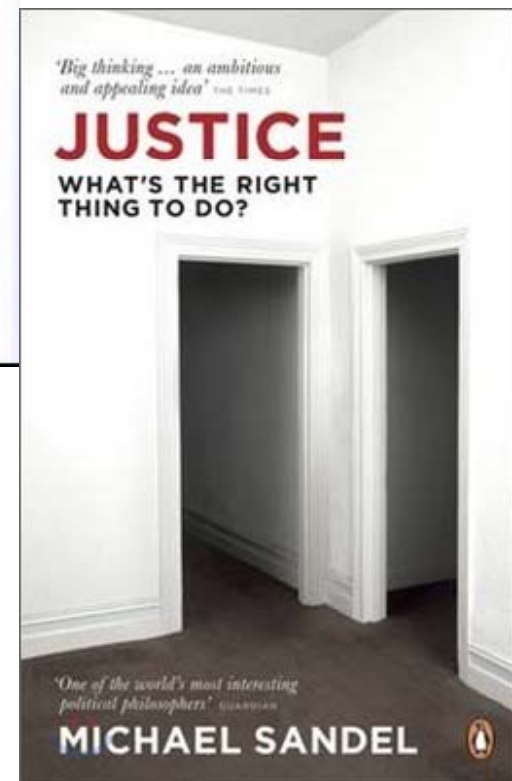
文芸・言語専攻 応用言語学領域3年

林 始恩

本の紹介

- 「正しい行い」とは何か？
 - 「正義」をめぐる哲学の問題
 - 私たちが社会で生きるうえに直面する問題：金融危機、経済格差、テロ、戦後補償
- 哲学・倫理の問題

これからの
「正義」の
話をしよう
いまを Justice
生き延びる What's the Right Thing to Do?
ための哲学
マイケル・サンデル 鬼澤 忍=訳
Michael J. Sandel 早川書房



著者の紹介ーマイケル・サンデル

- 1953年生まれ
- ハーバード大学教授
- 専門:政治哲学
- 主要著作:『リベラリズムと正義の限界』
- 学部科目「Justice」
- 講義の一般公開、PBSでの放送
- NHK教育テレビ『ハーバード白熱教室』



目次

- 第1章 正しいことをする
- 第2章 最大幸福論—功利主義
- 第3章 私は私のものか—リバタリアズム
- 第4章 雇われ助っ人—市場と倫理
- 第5章 重要なのは動機—イマヌエル・カント
- 第6章 平等をめぐる議論—ジョン・ロールズ
- 第7章 アフターマティヴ・アクションをめぐる論争
- 第8章 誰が何に値するか—アリストテレス
- 第9章 たがいに負うものは何か—忠誠のジレンマ
- 第10章 正義と共通善

事例

- ハリケーン時の便乗値上げ
- パープルハート勲章(心的外傷後ストレス障害)
- 金融危機時の企業救済(AIG幹部のボーナス)
- 意見の対立、判断の基準になる「価値」の違い

物語：爆走する路面電車

①路面電車の運転手

- 5人の作業員 vs 一人の作業員

②傍観者

- 5人の作業員 vs 太った男

- 太った男を突き落とす人は、いないだろう。
- 功利主義の考えからみると、論理的に同じ

「正義」への三つのアプローチ

- 三つの価値：幸福、自由、美德
- 最大幸福原理—功利主義
(ベンサム:「効用」を最大化するもの)
- リバタリアニズム—自由至上主義
(最小国家、自由市場)
- 幸福の最大化、自由の尊重も重要だが、
「**美德**」を考慮しなければならない

感想

- 日常の事例や架空の物語から問いを投げかけ、何が「正義」なのか、考えさせる。
- 世界で起きる様々な事件や、現在論争になっている問題について知ることができる。
ex) 代理出産、腎臓売買 / テロ容疑者
- 論争がその場で起きている感じで、おもしろい。(各々の価値を重視する立場から論争)